

公益の森づくりボランティア研修に参加

「出羽庄内公益の森づくりを考える会」では、平成 19 年度から年に 2 回程度研修会を実施しており、住民参加による森づくり運動を支える人材育成に努めています。

去る 8 月 24 日（水）、鶴岡市西郷地区農林活性化センターにおいて、平成 23 年度出羽庄内公益の森づくり事業ボランティアリーダー研修（第 1 講）「砂丘林での森林整備とニセアカシアについて」が開催されたので、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターから職員 2 名、行政関係機関、森林ボランティア団体、山形大学農学部学生等計 26 名が受講しました。

まず、室内で庄内総合支庁森林整備課の講師から「庄内砂丘林の概要」、「森林整備活動の基礎及び安全な作業」、「ニセアカシアの処理について」を受講し、その後、鶴岡市いこいの森庄内に隣接するクロマツ林（県有保安林）において「刈払い等の森林整備・ニセアカシアの処理実習」を受講しました。

研修参加者の大半は、このような作業を行うのが初めての人が多かったため、ニセアカシアの鋭い棘に注意をしながら、慎重に下刈鎌や鋸で刈払いを行っていました。また、クロマツ林の下層に残す樹木の選定についても、講師の指導のもと取り組んでいました。

参加した山形大学農学部的女子学生は、「クロマツ林を守るには、ニセアカシアの駆除が如何に必要かわかった。これからも、このような研修に参加して知識と技術を習得し、ボランティア活動に積極的に参加していきたい。」との感想を述べていました。

最後に、庄内総合支庁森林整備課の担当官の閉会の挨拶により、当研修は終了しました。

この研修に参加してみて、庄内海岸林のクロマツを保全していくことの重要性を再認識しました。多くの若い人がこの研修に参加して、庄内海岸林を後世に引き継いでいくための人材が一層増えていくことを期待しています。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター